

よるのもりは、しずまりかえ
っていた。とおくでとりのこ
えがきこえる。つきのひかり
が、きぎのあいだからさしこ
んでいた。そのひかりは、ゆ
めのようにゆらめいていた。

こうだろはん「げんだん」より